

施設めぐり

日本クレア株式会社

増田 恭造

石部・富士・八百津生育場

当社は1965年に SPF マウス・ラットの生産供給を目的に、(財)実験動物中央研究所をはじめ製薬企業各社の出資ならびに技術的支援を受けて設立されました。当初は、野川生育場（神奈川県川崎市）と高槻生育場（大阪府高槻市）で生産し、日本で最初の SPF マウス・ラットを全国各地に供給を行っていましたが、その後幾多の変遷を経まして、現在では以下にご紹介する、3ヶ所の生育場で SPF マウス・ラットの生産供給、さらに八百津生育場では、日本イー・ディー・エム(株)によってコモンマーモセットの生産、カニクイザルの検疫が行われ、供給されています。



富士生育場 8号棟

生育場の所在地とその概要

生育場名称	所在地	開設	動物種	生産棟数
石部	滋賀県 甲賀郡石部町	1968年	マウス ラット	8棟
富士	静岡県 富士郡芝川町	1970年	マウス ラット	8棟
八百津	岐阜県 加茂郡八百津町	1990年	マウス ラット サル	3棟 (内サル1棟)

石部生育場は名神高速道路・栗東 IC から、富士生育場は東名高速道路・富士 IC から、八百津生育場は中央高速道路・多治見 IC から各々20～30分の所で、周囲を山林に囲まれた実験動物の生産場として、交通・環境共に最適な条件を備えています。

施設と設備

SPF マウス・ラットにおいては、80～400㎡位の生産棟が敷地内に点在し、その各々がバリアシステムとしての機能を備えている、いわゆる小棟独立方式をとっています。この方式の特徴は、

- ①各棟ごとに小人数のチーム構成で、きめの細かい生産飼育管理ができる。
- ②建物の補修等が必要な時には、小規模の移動で済み、全体の生産数に与える影響が少い。
- ③万一の感染の発生があっても、その拡散を最低規模に止めることができる。

等があげられ、安定供給と質の良い実験動物用マウス・ラットの供給に適したシステムになっています。各生産棟は、需要の増加に合わせて増築されておりますので、建築年代は新旧さまざまですが、その構造は鉄骨 ALC 造または鉄筋コンクリート造が中心になっており、各棟ごとに専用の機械室とオートクレーブが設置されています。また、各生育場は前述のごとく、その周辺が山林に囲まれた自然環境にありますので、周辺はブロックや金網フェンスで囲まれ、野生動物等の侵入を防止しています。

一方、八百津生育場のサル類の施設は、一棟の建屋は内部で完全に2分され、一方はカニクイザルを主としたマカカ属サルの検疫と馴化飼育、もう一方は、コモンマーモセットの生産を行って

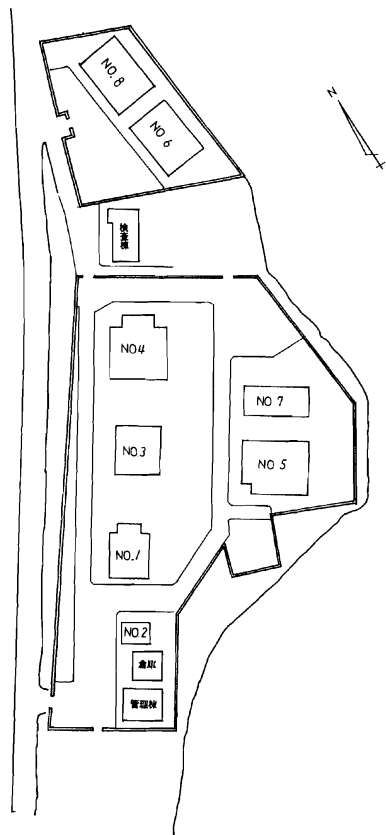


図1 石部生育場敷地図

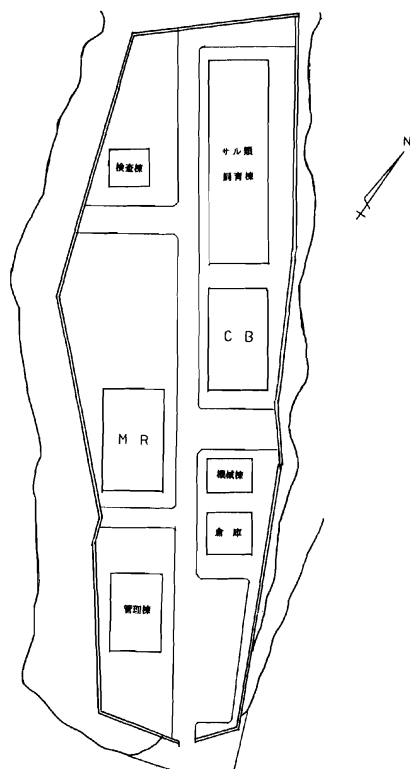


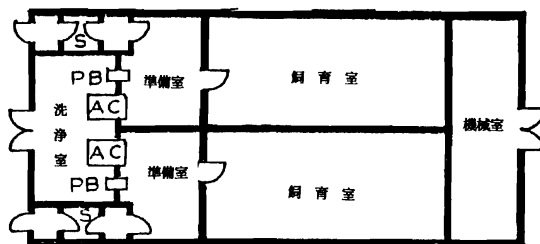
図2 八百津生育場敷地図

ます。マウス・ラットの施設のような、完全なバリアシステムではありませんが、外部に対してはクローズドの環境で、特にヒトとサル相互間の感染症の防御と環境条件の維持を念頭においています。

管理運営

SPF マウス・ラットにつきましては、その性質上どうしても微生物コントロールが管理の主眼になります。最近是新システムを導入する頻度が以前より飛躍的に増加しましたので、新規導入系統の種動物は八百津生育場に建設した検査棟で受入れ検査を行い、必要があれば微生物学的クリーニングを実施してから各生育場に導入します¹⁾。生育場における日常管理においてもソフト・ハード両面から防疫を中心とした飼育管理を行い²⁾、安全供給に努めております。

遺伝コントロールは微生物コントロールと並ん



AC: オートクレーブ PB: パスボックス S: 温水シャワー

図3 マウス・ラット生産棟の1例

で重要なコントロールになりますが、ヌードマウス・スキッドマウス・各種近交系等の主要系統は、富士生育場内に設置した原種コロニーのアイソレーターで、微生物・遺伝の両面からコントロールされ、定期的に各生育場に生産用の種動物が供給されています。

また、各生育場と技術部の連携によって、品質検査（スキッドマウスや ALY マウスの Ig 測定

等)・ベースラインデータ収集・各種調査・受託生産・受託試験等、幅広い業務体制を目指しております。

八百津生育場のサル棟においては、野生サルの捕獲禁止が広がる中、インドネシア・デリー島における人工繁殖カニクイザル^{3,4)}の入荷が本格化し、より高品質で使いやすいカニクイザルの供給を目指して、検疫と馴化飼育を行っています。また、コモンマーモセット⁵⁾は、コマーシャルブリーダーとしては日本で最初の生産供給となりますが、その有用性の開発はむしろこれからと申せます。より多くの動物と情報を提供できるよう、今後も努力を重ねる必要があります。また、これらのサル類の受託飼育や試験業務の拡大も今後のテーマと

して拡充をはかりたいと考えております。

詳しくは下記をご参照下さい。

- 1) Jcl News No. 4, p. 14~16 (生育場紹介シリーズ, その1—外部動物の受入れ検疫) 1992.
- 2) Jcl News No. 5, p. 12~17 (生育場紹介シリーズ, その2—生育場における微生物コントロールについて) 1994.
- 3) Jcl News No. 4, p. 5~6 (インドネシア・デリー島におけるカニクイザルの人工繁殖の状況) 1992.
- 4) Jcl News No. 5, p. 5~8 (同上, 第二報) 1994.
- 5) Jcl News No. 3, p. 1~4 (小型サル『コモンマーモセット』—その有用性と利用の現状—) 1991.